

2022/1/02

ヨハネの手紙第一 講解メッセージ⑥

『今は終わりの時』 I ヨハネ 2:18-26

## ■生きている者の神

「小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。」(I ヨハネ 2:18)

「今は終わりの時」、この言葉を通して聖書は何を教えようとしているのでしょうか。聖書は、神が今の私たちに語っておられる言葉として読むべきものです。なぜなら、神とは今この瞬間の私たちと関わる方だからです。聖書のことばを歴史書として読んでしまうと私たちは神に対して傍観者になってしまいます。神は昔来られて先祖と関わっただけの方ではありません。神は生きている者の神です。

「それに、死人の復活については、神があなたがたに語られた事を、あなたがたは読んだことがないのですか。『わたしは、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあります。神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。」  
(マタイ 22:31-32)

神は常に今におられ、決して過去になることのない方です。これが「永遠」です。「永遠」というと私たちはいつまでも時間が続くことと思いがちですが、そうではなく、「変わらないこと」「不動」が「永遠」です。神はいつの時代にも変わらず、生きている者と関わっておられます。ですから、神は信仰の対象であり、愛する対象なのです。学問の対象ではありません。聖書を読んで「素晴らしい方だな」と傍観するのではなく、今あなたと関わる方なのです。

## ■今と過去と未来

なぜ私たちは、過去と現在と未来を区別できるのでしょうか。それは、「今」を知っているからです。今この瞬間を知っているから、過去と未来を区別できるのです。

今この瞬間を知っているということは永遠を知っているということであり、神を知っているということです。動かないものを知っているからこそ、それを基準に過去と未来を区別することができるのです。これができるのは人間だけです。なぜなら、人間だけが神に似せて造られ、神のいのちが貸し出された存在だからです。

ところが、人間は過去や未来を区別できても、それをしっかりと持つことができません。

そのために不安を抱えています。過去や未来をしっかり持つことができないのは、現在をしっかり持っていないからです。今を知っているがしっかりと持っていない、つまり、神を知っているがしっかりと持っていないということです。それは、神にとどまっていけないということです。

私たちが神にしっかりとどまっていけないのは、神を持っているのと同時にいのちを否定する死を持っているからです。死は神を否定する運動です。つまり、神を否定する反キリストです。この運動を持っているがゆえに、神にとどまることができないのです。

私たちは今を持ちたいと願っていますが、いつもそれを否定する死という運動に惑わされて生きています。だから私たちにとっての「今」は常に動くのです。瞬間が定まっていけないので、過去も将来も定まりません。これが不安の原因であり、私たち人間の問題なのです。私たちが不安を感じるのはいっきりとした未来、確定した未来を持つことができないからです。過去に対しては自分のこととしてしっかりと持つことができずただ悔やむだけ、未来に対しても幻想を抱き希望を持とうとするだけで持っていない。それは私たちの間に死が入り込んだため、今を持っていないからです。

この不安が罪なのです。罪とは的外れな生き方のことです。「今」が動いていますから、的が定まりません。その結果、的外れな生き方をしてしまうのです。

「小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。」(Iヨハネ 2:18)

## ■終わりの時とは

私たちが「今」を持つことができないのは、反キリストが現れたからです。反キリストとは、神のいのちを否定する「死」のことです。神のいのちを否定し神を否定する惑わしに私たちは振り回されています。この手紙が書かれた当ても様々な惑わしがありましたが、今の時代は今の時代で同じように私たちを惑わす反キリスト、つまり神を否定するものが大勢現れています。だから聖書は「今は終わりの時」と言っているのです。それは具体的に何を意味するのか考えてみましょう。

### 1. 人はいつ死ぬかわからない

私たちは、自分がいつ死ぬかわかりません。死んだあと、あなたはどこに行くのか、あなたの未来は確定しているのか、と神は問いかけておられます。

### 2. 神はあなたに決断を迫っている

「反キリストに惑わされないで、私にとどまりなさい」と神は語っておられます。永遠なる神を持つことで私たちは「今」を持つことができるようになり、未来が確定します。ですから、現在の生き方を終わりにし、イエス・キリストを受け入れなさいと、神は私たちに決断

を迫っておられるのです。

### 3. イエス・キリストを受け入れる時

私たちがキリストにとどまるなら、イエス・キリストの生涯が自分の生涯になり、キリストのすべてが私たちのものになります。キリストの生涯とは、十字架に架かり罪を赦す生涯です。ですから、イエス・キリストという「今」を持つなら、過去は赦された過去に意味が変わるのです。

人は失敗し罪を犯すものです。しかし、赦しが確定しなければ罰を受けるのではないかといつも不安におびえることになります。しかし、イエス・キリストという「今」を持つなら、十字架の贖いがあなたのものになり、罪が赦されるという過去が確定します。そして、それは同時に復活という未来を持つことになります。イエス・キリストは、三日目に復活されました。その復活があなたのものになるのです。

#### ■終わりの時は恵みの時

イエス・キリストにとどまるのが「今」を持つということであり、そうすることで過去と未来が確定します。それは赦された過去と未来のよみがえりが確定するということです。これが私たちに平安をもたらします。神が与える計画は平安を与える計画だからです。

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」  
(ヘブル 11:1)

神にとどまるとは、イエスを自分の救い主と受け入れて、そこにとどまることです。これが信仰に生きるということであり、未来を確定させるということです。あなたの未来は確定しているでしょうか。それともまだ不安の中に生きていますでしょうか。もし、まだ不安の中にいるのなら、それは神にしっかりとどまっていないからです。別のものでごまかそうとしても一時的に安心を感じるだけで解決にはなりません。この世の何にしがみついてもこの問題は解決しません。この世界のものはすべて動いていますから、この世の何につかまっても結果は同じです。私たちがしがみつくことができるのは、動かないものだけです。つまり、永遠に変わらない神様だけなのです。この方につかまって初めて、「今」を持つことができるようになるのです。そうして、過去が確定し、未来が確定する——、聖書はそうい合う生き方をしなさいという意味で、「今は終わりの時」と語っています。ですから、「今は終わりの時」とは、「今は恵みの時」という言葉に言い換えることができるのです。

今イエス・キリストを持つならば、これから恵みが来るのではなく、今恵みを受けることができます。今イエスにとどまるなら、今が救いの時です。それは、あなたの古い生き方に終止符が打たれるときなのです。このことを聖書は次のように言い換えをしています。

「神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」(Ⅱコリント 6:2)

あなたの心の平安は、将来何かを手にしたときに得られるわけではありません。それはイエス・キリストとつながって初めて達成できるのです。イエス・キリストという今を持つことで、はっきりと平安を持つことができます。もうこの世界のものに惑わされてはなりません。それはこの世界のものを大切にしないでよいということではなく、今をもって生きなければいつも不安定な人生になってしまうということです。人生が定まらず、自分がどこから来てどこに流れていくのかわからない、これが不安の原因です。それは、今を持っていないからです。しかし、イエス・キリストをしっかりと持つなら、「今は恵みの時」という「今」を持つことができます。そして、古い生き方を終わらせるという意味で「今は終わりの時」なのです。それが今あなたが手にする救いの日です。

### ■キリストにとどまりなさい

なぜ今を持って生きていないと不安になるのか、それは神があなたの心の扉をたたいておられるからです。「あなたは私を知っているのだから、ドアを開けて私を受け入れて私と共に生きなさい」と言って、神様はあなたの心の扉をたたき続けます。ですから、不安を覚えるとき、あなたは神の声を聞いているのです。「あなたは、いつまで見えるものにしがみついて不安を排除しようとするのか」と神は語り掛けておられます。何にしがみついても今という瞬間を持つことはできません。瞬間はイエス・キリストであり、イエス・キリストだけが永遠で不動です。だから、この方につかまってとどまり、あなたの過去と未来を確定させること、これが神の平安の計画です。

「彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるためなのです。」(Ⅰヨハネ 2:19)

「彼ら」とは、イエス様のもとを去っていった弟子たちのことです。当時、イエス様の弟子は12弟子以外にもたくさんいましたが、多くの弟子がイエス様を裏切ったまま帰ってきませんでした。ペテロやヨハネ等の弟子たちは、イエス様を裏切りましたが帰って来ました。帰ってこなかった弟子はもともと私たちの仲間ではなかったとは、彼らはイエス・キリストをしっかりと持っておらず、救われていなかったということです。イエス・キリストを持つことが重要なのです。

「あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。」(Ⅰヨハネ 2:20)

イエス・キリストを持つとは、私たちが努力したことではなく、聖なる方の油注ぎ、つまり、聖霊の助けによってできることです。神の呼びかけに応答し、永遠のいのちを受け取り、霊のからだを着せられました。それは、神の国に属する体なので、その結果御霊の助けを受けられるようになり、その助けによって地上でもイエス・キリストを信じることができるようになるのです。

「このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。私は、あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来ました。」

( I ヨハネ 2:21-26)

ヨハネがイエス・キリストを知っている者に手紙を書いたのは、反キリストと呼ばれる偽りが充満しているからです。悪魔の仕業によって死が入り込んで以来、この世界は神のいのちを否定する運動が満ちあふれるようになりました。それは、イエス・キリストを否定する運動です。

私たちのまわりには惑わす者が大勢います。ですから、イエス・キリストを知っていて救われているにもかかわらず惑わされている人たちに、キリストにとどまる決心を促し、しっかりととどまりなさいと神は励ましておられます。

たとえば、お金が一番大切だという考えは、すでにイエス・キリストを否定しています。聖書は神が一番だと教えていますから、それを認めないのはイエス・キリストを否定することになります。残念なことに、お金、仕事、評判……、とにかくこの世界のものがまず大切だという情報にこの世界は満ちあふれています。

私たちは本当に神を第一と死、神にとどまろうとして生きているのでしょうか。それよりも大切なものがあると言ってそちらを大切にしていないのでしょうか。神がいつも二の次になってはいないのでしょうか。何かを言い訳にして、礼拝をさぼろうとしていないのでしょうか。何かを言い訳にして、神と共に生きることをやめようとしてはいないのでしょうか。これらがイエス・キリストを否定する反キリストです。

聖書は 2000 年前の人たちに語っているわけではなく、今あなたに語っているのです。今あなたは神としっかり向き合っているのでしょうか。それとも惑わされているのでしょうか。

なぜ祈りが大切か、なぜ聖書を読むことが大切なのか、それは私たちがキリストにとどまるためです。私たちはいつも惑わされてふらふらしてしまいます。ですから、キリストにしっかりととどまり、キリストと共に生きていくために、祈り、聖書を読むのです。今あなた

は何につかまって生きているのでしょうか。何を自分の宝として生きているのでしょうか。イエス・キリストは、私たちは富にも仕え、神にも仕えることはできないと言われました。私たちがとどまる場所はイエス・キリストです。

神の愛の中にとどまるなら、あなたの過去は赦しに確定します。そして、未来は復活に確定します。そうすればあなたの不安は消え、平安になります。その平安とは神と共に生きることです。これ以外に平安はありません。惑わされることなく、キリストを通しての平安をもってこの世界で生きていきましょう。今一度自分の立ち位置を確認し、イエス・キリストとしっかりとつながり、永遠のいのちと共に生きていきましょう。